



優秀賞

福岡県遊技業協同組合 『こども絵画コンクール』開催」事業



福岡県遊技業協同組合 青年部 会長 竹田光寛さん

児童養護施設の子どもたちに「夢」や「未来」の絵を描き続けてほしいから

作品数が2倍に増えた『こども絵画コンクール』現代において「夢」や「未来」という言葉が輝きを保ち続けているかと問われたら、あなたはどうか答えるだろうか。過渡期や転換期といわれ、ますます混乱や不確かさの度合いを深めてきている時代だからこそ、「夢」や「未来」を感じさせるものに触れていたいという人は少なくないだろう。

昨年11月、福岡県遊技業協同組合では青年部会が主催者となり、前年に引き続いて『こども絵画コンクール』を開催した。同コンクールは、福岡県内にある児童養護施設全20施設に入所する小学生を対象にしたもので、絵画のテーマは、ずばり「夢」と「未来」。青年部会の精力的な参加呼びかけに対し、2回目となった今回のコンクールには、16施設から計289点の応募作品が集まった。1回目は9施設、138点だったというから、参加施設数も作品点数も、ほぼ2倍に増えたことになる。それだけ1回目が好評だったともいえるし、その意義がより広く浸透したともいえるだろう。

応募作品を展示する作品展は、2日間にわたって開催された。会場となった天神イムズプラザ地下2階広場には、期間中、老若合わせ、延べ2000人の来場者が訪れ、子どもたちが自分たちの夢や未来を思い思いに表現した絵を熱心に見つめていた。会期中には表彰式も行われ、学年別に最優秀賞、優秀賞、佳作が決定されたほか、審査員特別賞、施設賞も選ばれ、それぞれに表彰状や副賞が贈られた。最優秀賞に輝いたのは、サッカー選手や野球選手になりたいというものや、時計屋さんやドーナツ屋さんになりたいという将来の夢を描いた作品だった。

施設の子どもたちに絵を通じて 共通体験の機会を

県遊技青年部会のメンバーはコンクール開催にあたり、協賛・後援を依頼するため、さまざまな団体を回ったほか、コンクール当日の会場準備や案内、表彰式のアテ



最優秀賞を受賞した作品



青年部会のメンバーは、協賛・後援を依頼するためのさまざまな団体を回ったほか、コンクール当日の会場準備や案内、表彰式なども行った



作品展には、2,000人の来場者が訪れた

Advertisement for the 2nd Children's Drawing Contest. It includes the title 'こども絵画コンクール', the theme '夢」「未来」を自由に描こう!', and details about the competition. It features a graphic of a child's drawing and a calendar icon indicating the deadline '2009.9.30'. The text describes the contest's purpose, eligibility, and prizes.

作成したコンクールの告知と作品募集を呼びかけるチラシやポスター

ンドなどを行った。また、このコンクールの告知と作品募集をかねたチラシやポスターを作成して、各組合員ホールや関係団体に配布し、掲示を依頼した。さらに、青年部会の部長や副部長らが地元のテレビ局、ラジオ局の番組に出演し、積極的な事前PR活動を行った。そうした努力の積み重ねが、このコンクールの成功につながっていることは間違いなし、それとともに業界に対する信頼度や期待感の向上にも大きく寄与していると思われる。

審査会や表彰式に参加した来賓を代表して挨拶に立った福岡県児童養護施設協議会の西田稔夫会長は、「昨年に引き続き、こども絵画コンクールを開催していただき、大変うれしく思います。共通の体験ができる機会が少ない施設の児童たちにとって、このコンクールはそれを体験できる場。表彰された児童は大変な励みになっているし、選にもれた児童も来年こそはとがんばっている。どうか3回、4回と続けて開催し、子どもたちに

たくさんの夢を与え続けていただきたい」と述べた。ここで期待されているのは、こうした社会貢献活動が一過性のもので終わるのではなく、継続して行われることです。ますますその価値や意義を深めていくことだろう。

「サイは投げられた」ではないが、確かに今、一粒の種はまかれた。それが大輪の花を咲かせるかどうかは、今後の継続にかかっている。その辺の事情は主催者の青年部会側も強く意識しているようで、竹田光寛青年部会長は、「テーマが夢、未来ということで、子どもたちの夢をそのまま見せてもらっているようで、大変楽しい。また、子どもたちが描いた作品を見ると、明るく元気な子どもたちの姿が浮かび上がってくるようで、うれしい気持ちになる。これからもっともっと、子どもたちの明るい夢を見せてもらいたいと思うので、継続事業として取り組んでいきたいと思っています」と、コメントを寄せてくれた。今後に期待したい。